

学修成果の把握 報告書

I. 学修成果の把握（学科の目標 学位授与の方針）

1. 各学年の分析対象数は、1年生が 62 名 (69.7%)、2年生が 76 名 (84.4%)、3年生が 75 名 (88.2%)、4年生が 69 名 (84.1%) であった。
2. 全学年を通して、全ての項目及び学年において平均 2.5 以上であった。
3. 全学年を通して高得点の項目は、「コミュニケーション能力 (4.2)」、「努力する態度 (4.2)」、「協働 (4.1)」、「倫理観 (4.1)」であった。低得点の項目は「科学的・論理的思考 (3.8)」、「創造性 (3.9)」であった(図 1)。昨年度より全体的に得点が上がっており、3 年生・4 年生の回答率の向上によるものと推察された。
4. ほぼ全ての項目において、学年があがるにつれ平均点が上昇しており、学生は着実に学修を深めていると思われる。高得点であった「コミュニケーション能力」と「倫理観」は、学年があがるにつれ平均点があがるという傾向が顕著であり、特に臨地実習等の経験が大きく寄与しているものと推察された。一方、低得点である「科学的・論理的思考」「創造性」については、3 年次の平均点が低いという状況にあった。3 年次は臨地実習が本格化する学年であり、臨地実習においてもこれらの力を涵養することによって、今後の改善が期待される。また、「努力する態度」も高得点となっており、授業や実習においても意欲を保ち、懸命に学修に取り組んでいたと思われる。今後も教員は工夫した授業や実習を行い、学生がより積極的に学べるような環境整備に取り組む必要がある。

